

## 国宝・彦根城築城410年祭

**日本初、国宝の城で行うアートフェスティバルがいよいよ開幕！**

**『HIKONE ART CASTLE』、9月23日（土）開城！**

**2017年9月23日(土)～12月10日(日) の期間、国宝・彦根城で開催**

国宝・彦根城築城410年祭推進委員会（会長：小出英樹）が、「国宝・彦根城築城410年祭」の一環として開催する、国宝・彦根城を舞台にしたアートフェスティバル「HIKONE ART CASTLE（通称：HAC）」が2017年9月23日（土）について開幕いたします。

この「HAC」は、現代的アートセンスで、姫路城・松本城・犬山城・松江城と並んで日本に5つしかない国宝の城である彦根城をハックし、現代の彫刻家やイラストレーターなどの著名アーティストによる「城・戦国江戸期の不易流行表現」をテーマとしたアートの数々を展示。現代に生きる最先端の文化発信拠点として国宝・彦根城の新たな魅力を創出し、新しい世代への継承と発展へと繋げていくことを目的としています。

また、全国の美術系の大学や専門学校の学生を対象にした公募型彦根市滞在アートプログラムのファイナリストが城下町で作品展示する「HIKONE STUDENT ART EXHIBITION 2017」もHACの一環として開催します。



▽ 「HIKONE ART CASTLE」公式サイト URL ▽ <https://hikone-art-castle.jp/>

## ■ 「HIKONE ART CASTLE」とは



「HIKONE ART CASTLE（通称：HAC）」とは、「国宝・彦根城築城410年祭」の一環として、2017年9月23日（土）から12月10日（日）まで、国宝・彦根城及び城下町を舞台に開催するアートイベントです。

1952年に国宝に指定された彦根城天守は、関ヶ原合戦の前哨戦で耐え抜いた大津城から移築されたといわれ、1607年頃に完成しました。政治的象徴としての外観の美しさだけでなく、城本来の機能である軍事面でも優れています。「HAC」は、現代的アートセンスで、姫路城・松本城・犬山城・松江城と並んで日本に5つしかない国宝の城である彦根城をハックし、現代の彫刻家やイラストレーターなどの著名アーティストによる「城・戦国江戸期の不易流行表現」をテーマとしたアートの数々を展示。現代に生きる最先端の文化発信拠点として国宝・彦根城の新たな魅力を創出し、新しい世代への継承と発展へと繋げていくことを目的としています。

### <HIKONE ART CASTLE 2017 天秤櫓特別展>

国宝・彦根城築城410年祭のプロモーションムービーなどの制作に関わった

4組のアーティストによる「城・戦国江戸期の不易流行表現」をテーマとしたアート展を開催。

開催期間：2017年9月23日（土）～12月10日（日）

開催場所：彦根城天秤櫓（彦根城の入場料が必要となります）

参加アーティスト（50音順）：浅野健一（彫刻家）、CEKAI（クリエイティブアソシエーション）、前田鎌利（書家）、MAHARO（イラストレーター）

### <HIKONE STUDENT ART EXHIBITION 2017>

全国の美術系の大学や専門学校を中心に学生を対象にした、公募型彦根市滞在アートプログラムのファイナリストが、最終審査の舞台となる城下町にて作品展示を行います。

開催期間：2017年9月23日（土）～10月1日（日）

開催場所：宗安寺（拝観料が必要となります）・スミス記念堂・寺子屋力石

▽ 「HIKONE ART CASTLE」公式サイト URL ▽ <https://hikone-art-castle.jp/>

## ■「HIKONE ART CASTLE 2017 天秤櫓特別展」参加アーティスト

### ・前田鎌利 (マエダカマリ) / 書家

1973年福井県生まれ。東京学芸大学 書道科卒業後、独立書家として歩む。Softbank「志高く」、JAXA「このとり」、Jリーグ「絶対突破」、重要文化財旧小坂邸襖書「花鳥風月」など多数の作品を手がける一方、国宝・彦根城などでのライブパフォーマンスをはじめ、NY、台湾など国内外にて展開している。また、未来へ日本文化を継いでいく活動として全国15カ所で書道塾「継未-TUGUMI-」を主催。600名を超える生徒へ日々書を通じた内観することの重要性を伝えている。



#### <展示作品>

##### 市民参加型『念い（おもい）』

書家・前田鎌利氏の監修による市民参加型作品。彦根市民、市内小学校児童、前田氏の教室の生徒の皆さまが、それぞれの“念い（おもい）”を込めた漢字1文字を幟に揮毫しています。書とは歴史にふれることであると語る前田氏は、皆で書をしたためる本作品のコンセプトを「文化を次の世代に継いでいくこと」としています。

※他、書『不易流行』、『城』を展示





## ■「HIKONE ART CASTLE 2017 天秤櫓特別展」参加アーティスト

### ・MAHARO (マハロ) / イラストレーター、アートディレクター

2000年にイラストレーター/ペインター/アートディレクターとして活動を始める。ミュージシャンとのコラボレーションや企業広告を中心にイベントフライヤー、CD、レコードジャケット、壁画、映像素材などでイラストを提供している。ライブペインティングではアジア圏やヨーロッパ圏をはじめ海外へも活動の場を広げている。GROUNDRIIDIM所属。



#### <展示作品>

『栄(えい)』= 屏風(大)

『豊(ほう)』= 屏風(小)

彦根城築城410周年を祝して太平洋にある小国CIMHから寄贈された屏風。CIMHは古くから日本と文化交流があり芸術分野でもその影響が強い。作者のMAHAROはCIMH出身の伝統的な絵師である。



### ・浅野健一 (アサノケンイチ) / 彫刻家

2006年に愛知県立芸術大学を卒業後、仏像修復の仕事に携わりながらからくり人形を研究。日本の古典彫刻に触れる傍ら、幼少時から愛好していた漫画やゲームの影響から古典技法で遊ぶをコンセプトに活動。現在、伝統技法と古典技法を用い新しい感性と新しいモチーフと新しいテーマで新世代の古くて新しい「神」づくりを追求している。「傀儡、憑衣、一体化、コスプレ、装備、変身、禊、転生」をテーマにしている。2016年円空賞最年少受賞。



#### <展示作品>

『古(いにしえ)の闘神』

初期の3D格闘ゲームのビジュアルにインスピレーションを得た仁王像。日本古来の格闘家を象徴する金剛力士像。その新旧の格闘家イメージを一体化した。ネットというバーチャル世界でコミュニケーションをとることが当たり前になってきた現実世界で、バーチャル世界の立体を目の当たりにすることによって、夢と現実、生と死、あるいは異世界との境界線を曖昧にする。



### ・CEKAI (セカイ) / クリエイティブアソシエーション

2013年に、クリエイター集団TYMOTE (ティモテ) 代表の井口皓太を中心に設立されたクリエイティブアソシエーション。東京と京都に制作拠点を持つ。クリエイターが、社会に対して受動的ではなく能動的に活動するために立ち上げられたCEKAIの中では、フリーランスを中心とした30名を超えるクリエイターたちが、既存の所属組織や働き方に囚われることなく、各々が持つ「世界」の解像度を高め、繋げ、表現していく事をミッションとして活動中。企業の広告制作からオリジナルプロダクト開発まで実績多数だが、そのほとんどは公開されておらず、未だ多くが謎に包まれている。



#### <展示作品> 『彦根に集え! 弐』

国宝・彦根城築城410年祭 プロモーションムービー「彦根に集え!」をデジタルアート作品として昇華します。井伊直孝の甲冑を前後二層、プロジェクションマッピングとは異なる技術を使って映像で囲み、ここ天秤櫓でしか実現しないフィジカルな体験を提供します。

※展示作品は10月中旬公開予定。

■ <HIKONE STUDENT ART EXHIBITION 2017> 展示作品例

